

指定管理者からの令和6年度事業報告概要

施設名	特別史跡旧閑谷学校
施設所在地	備前市閑谷 7 8 4

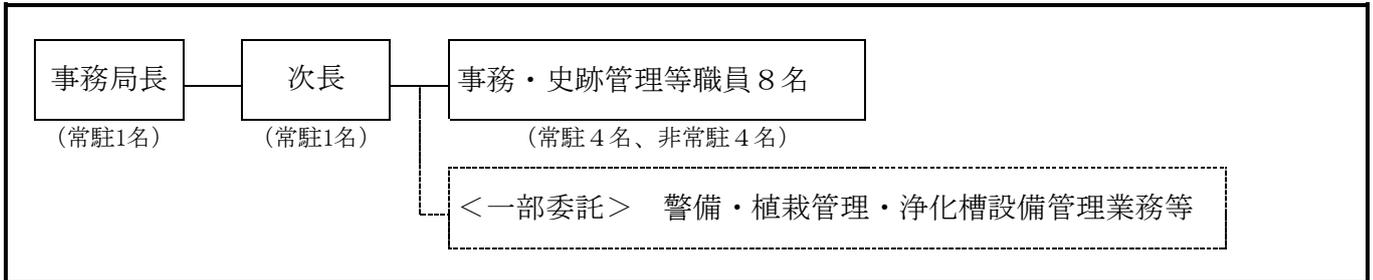
【指定管理者の概要】

名称	公益財団法人特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	代表者	理事長 國友 道一
所在地	備前市閑谷 7 8 4		

【指定管理の概要】

指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	報告期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
管理業務の内容	特別史跡旧閑谷学校の ・管理及び公開に関する事。 ・運営に関する事。 ・行為の許可に関する事。 ・普及啓発に関する事		

【管理体制の状況】



【利用等の許可の状況】

(単位：件)

		入場		合 計
許 可 件 数	6 年度	63,435		63,435
	5 年度	63,769		63,769
	増 減	△334		△334

【維持管理の業務の実施の状況】

項 目	内 容
施設、設備の維持管理業務	・昼夜間の巡視業務 ・建物の小修理業務 ・草刈り清掃業務 ・樹木の剪定業務 ・入場料徴収等窓口業務 ・史跡内の案内 ・施設設備の保守点検業務
施設、設備の利用状況	・積菜（せきさい）、読初（よみはじめ）の儀の開催 ・閑谷学校に関する資料の収集・整理
自主企画事業	・閑谷論語塾 ・文化講演会 ・早春を愛でる会 ・閑谷マルシェ ・閑谷学校ライトアップ ・史跡ボランティア研修会 ・閑谷おもしろゼミナール ・漢詩講座

【利用料金の収入及び減免の状況等】

(単位：円、件)

		入場料		合 計
収入額		18,158,160		18,158,160
利用件数		63,435		63,435
減免額		2,988,120		2,988,120
減免理由	高齢者（65歳以上）			

指定管理者からの令和6年度事業報告概要

【管理に係る収支の状況】

(単位：円)

		6年度	対前年度増減額	5年度	備考
収入額 A		29,750,459	△550,597	30,301,056	6年度収入額 その他の主なもの ・イベント手数料収入 1,266,859円 6年度支出額 その他の主なもの ・各種税 1,274,100円 【主な増減内容等】 (収入) ・IT導入補助金及び 企業協賛金の減 △4,088,054円 ・指定管理料のうち 賃金及び物価の上 昇に応じた増額分 1,167,834円 (財源は全額国庫) ・キャッシュレス決済 の手数料分の補填 34,127円 (支出) ・臨時職員の増加に 伴う人件費の増 1,453,566円 ・維持管理及び保守 管理費用の減 △1,447,560円
内 訳	指定管理料	9,930,834	4,239,834	5,691,000	
	利用料金収入	18,124,033	△920,377	19,044,410	
	事業収入	349,000	218,000	131,000	
	その他	1,346,592	△4,088,054	5,434,646	
支出額 B		30,982,580	173,965	30,808,615	
内 訳	人件費	18,602,994	1,453,566	17,149,428	
	管理運営費	8,353,973	△1,447,560	9,801,533	
	事業費	2,751,513	△139,741	2,891,254	
	その他	1,274,100	307,700	966,400	
収支額 A-B		△1,232,121	△724,562	△507,559	
県への納入金		0	0	0	
実質的な県負担額		8,770,481	3,079,481	5,691,000	

【特記事項 (管理運営業務の実施状況の点検結果)】

点検項目		区分	特記事項 (評価すべき点・改善すべき点)
管理 運 営 状 況	①適切な施設 管理の履行	B	事業計画に沿った適切な管理が履行されていた。
	②法令等の遵守 状況	C	法定点検のうち、建築基準法第12条第2項に定める建築物点検及び第4項に定める特定建築設備点検が未実施であった。
	③安全性の確保	B	緊急時対策マニュアルの整備、防火訓練の実施など、安全性を確保した管理が履行されていた。
	④財産の適切な 管理	B	除草や掃除の徹底、日常的な巡回により早期の異常発見に努めるなど適切な管理が履行されていた。
導 入 効 果	①利用状況	C	地元観光協会等との連携や報道機関への広報活動、ホームページへのイベント情報の掲載などにより入場者の増加に努めたが、前年度比やや減となった。 【利用者数】 R6 : 63,435人←R5 : 63,769人←R4 : 64,024人← R3 : 59,958人←R2 : 53,587人←R1 : 88,431人
	②収支状況	C	コロナ禍前である令和元年度との比較では利用料金収入は減少しているものの、管理業務を自前で実施するとともに、支出を最小限に抑える努力をしている。
	③サービス向上	B	職員やボランティアによる史跡の案内、多言語に対応した電子看板やパンフレットの整備によるインバウンド対応、SNSを利用した積極的な情報発信等によって、サービスの向上が図られた。
管理運営業務全般		B	協定書、事業計画書、収支計画書に基づき、管理運営業務が履行されている。コスト意識をもった業務の遂行やサービス向上への取組が認められる。

※「区分」欄は、点検結果の区分。区分の内容は次のとおり

A : 予定していた業務水準を上回った。

B : 予定していた業務水準を概ね実施した。

C : 予定していた業務水準の一部が実施できなかった。 D : 予定していた業務水準を下回った。